

【三大学病院合同】小児科 専門修練プログラム

1. プログラムの概略・特徴

本プログラムは、熊本大学、大分大学、宮崎大学の三大学小児科が一丸となって相互サポートし、小児科後期研修医がバランスのとれた総合力のある小児科医（小児科専門医）になることをめざしている。小児科は内科同様多岐の疾患にわたり、さらに成長発達（健診）、予防接種（小児保健）など小児独特の分野も多い。したがって一つの病院において、これら全てを学ぶことは困難だと考えられる。本プログラムに属する研修医は各大学のそれぞれ得意分野における小児医療を優先して研修する。大学病院では経験することの難しい救急、一般小児科に関しては地域小児科センター病院あるいは小中規模病院での研修もを行い、地域に根ざした小児のプライマリケアを学ぶ。各大学の多くの先輩小児科医と接することにより、これまでにない広い視野と深い知識を持つことが可能と思われる。さらに医師としての人脈や将来目指す小児科医像の想定、大学院における研究や subspeciality の決定に繋がるものと思われる。このプログラムの終了時には小児科専門医を取得することも目標にしている。

2. 研修目標

【一般目標】

一般小児科、小児救急、小児保健、栄養・栄養障害、新生児、内分泌代謝、アレルギー免疫、感染症、呼吸器、神経・筋、循環器、血沈・腫瘍などの各分野の外来、入院診療を指導医および専門医のもとで研修する。これまでは各大学病院およびその連携医療機関のみの交流で研修を行ってきたが、臨床技能教育、臨床研修実施、生涯学習支援の面では不十分な点が否めなかった。今回、九州の隣接県の三大学病院が協力して専門医養成ならびに臨床研究者養成教育プログラムを実施することで、これまでの不足とされた部分を補い、地域内・地域間での医師の生涯研修・交流に役立て、先進医療に携わりつつ、小児科診療を全般的に習得する。学術集会への参加、論文作成、発表を積極的に行う。研修の後には小児科専門医の取得を目指す。

【行動目標】

1) 主要な小児科疾患として以下の疾患、病態を後期研修期間中に経験する。

一般小児科

小児救急

小児保健

栄養・栄養障害

新生児

先天代謝疾患

内分泌疾患

アレルギー疾患

感染・免疫疾患

呼吸器疾患

神経・筋疾患

循環器疾患

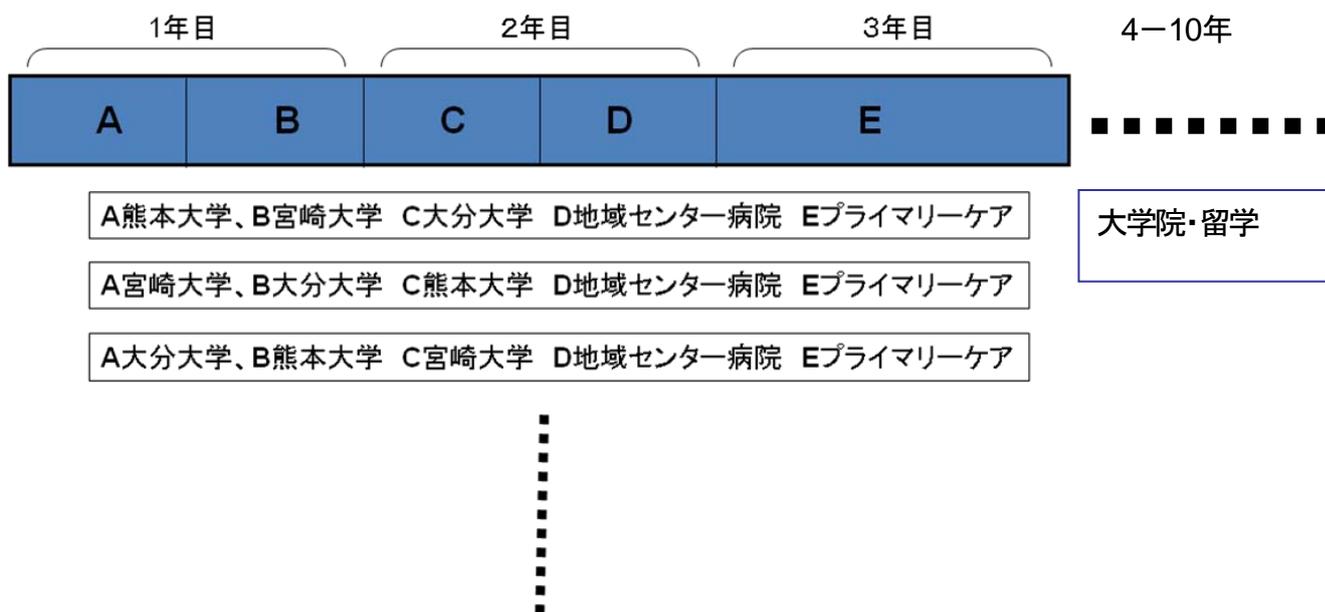
血液・腫瘍疾患

2) 小児科研究会、学会での発表による実績研鑽

- 3) 小児科専門医取得
- 4) 大学院に進学する。
- 5) 合同セミナー合同カンファを実施し参加する。
- 6) シミュレーターを活用した手技の習得・技術向上を実施する。

3. 研修スケジュール

3年目～凡そ10年目



それぞれにおいては、各関連病院での研修を含む。

4. 評価

日本小児科学会認定小児科専門医の取得

大学病院でのサブスペシャリティーを中心とした研修ならびに大学院進学(国内・外国留学の機会もあり)。
関連病院での小児科勤務、地域での開業。各臨床分野での専門医取得を目ざす。

5. 募集人員

各年度3-5名

6. 実施責任者

遠藤文夫 (熊本大学大学院医学薬学研究部小児科学分野 教授)

泉達郎 (大分大学医学部小児科学講座教授)

布井博幸 (宮崎大学医学部生殖発達医学講座小児科学分野教授)

7. 指導責任者

三淵浩 (熊本大学医学部附属病院新生児学寄附講座 特任教授)

仲里仁史 (熊本大学大学院医学薬学研究部小児科学分野 准教授)

是松聖悟 (大分大学医学部附属病院地域医療・小児科分野担当教授)

澤田浩武 (宮崎大学医学部生殖発達医学講座小児科学分野講師)

8. 関連施設、学会認定状況

熊本大学病院関連：熊本市民病院、熊本赤十字病院、熊本中央病院、国立病院機構熊本医療センター、熊本地域医療センター、国立病院機構熊本再春荘病院、熊本労災病院、水俣総合医療センター、天草地域医療センター、人吉総合病院、宮崎県立延岡病院、国立病院機構都城病院、国立病院機構西別府病院、芦北学園発達医療センター、江津湖療育園

大分大学病院関連：大分市医師会アルメイダ病院、大分厚生連鶴見病院、大分県立病院、大分こども病院、国立病院機構西別府病院、国立病院機構宮崎病院、公立おがた総合病院、慈恵会西田病院、杵築市立山香病院、国東市民病院、健康保険南海病院、津久見市医師会立津久見中央病院、大分県済生会日田病院、竹田医師会病院、天心堂へつぎ病院、別府発達医療センター、恵の聖母の家

宮崎大学病院関連：県立宮崎病院、県立日南病院、宮崎市小児診療所、愛泉会日南病院、済生会日向病院

9. その他

a.小児科における地域医療への貢献：医療が専門分化する昨今で、地方の病院では救急を含めた急性疾患及び神経や腎臓等の慢性疾患、**primary care** が必要な新生児など様々な患者が来院する。小児科医は**general** な診療を行う科と言われているが、後期研修医が経験すべき最高の医療の場と言える。同時に少子化の今日において大切に子供を育てるという流れの中で、地域病院の小児科は必要不可欠な要素の一つである。また当科は地域の開業医などとも連携して、予防医療や健診業務なども担い、病気の子供をみるだけでなく、地域全体の小児の健康増進に寄与している。関連施設の中には重症心身障害施設もあり、重心児の **care** も行っている。このように当科は一般医療と社会医療両面から **community-based medical care** という形で地域社会に貢献している。

10. 連絡先

熊本大学医学部附属病院新生児学寄附講座 三淵 浩

熊本大学大学院医学薬学研究部小児科学分野 准教授 仲里 仁史

〒860-8556 熊本市本荘 1-1-1

TEL : 096-373-5191 FAX:096-373-5335

E メールアドレス : mitsubuchi@fc.kuh.kumamoto-u.ac.jp (三淵 浩)

hnakazat@fc.kuh.kumamoto-u.ac.jp (仲里 仁史)

大分大学医学部附属病院小児科学 是松 聖悟

〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘 1-1

TEL : 097-586-5833、Fax 097-586-5839、

E メールアドレス : kseigo@med.oita-u.ac.jp

宮崎大学医学部附属病院小児科 澤田 浩武

〒889-1692 宮崎県宮崎郡清武町木原 5200

TEL : 0985-85-0989

E メールアドレス : hirotake_sawada@fc.miyazaki-u.ac.jp